

して長齡備を嚴にして待てり。張格爾果して來り襲ふ。清兵擊て殆んど殲す。張格爾僅に三十人を從へ、騎を棄て、喀爾鐵蓋山カールテカイに登る。副將胡超、都司段永福等追ひ迫りて生擒し、後、北京に護送す。

張格爾の生擒に就くや、將軍長齡、乃ち浩罕及布魯特に檄して其の家族を索む。浩罕應せず。清廷因て其の貿易を禁じ、彼等の生計を窘蹙せしめ、自ら縛し來つて市を開かんことを求めしむ。浩罕王憤怒、乃ち張格爾の兄玉素普ユイスイプを立て、湖查と爲し、道光十年三千八百布魯特、安集延等千餘人を合せて喀什噶爾を侵さんとす。阿克蘇回部郡王伊薩克イサク等、情を喀什噶爾の鎮守、參贊大臣札隆阿に報ずるも信せられず、後ち札隆阿、始めて警を聞き、大に驚き、直に幫辦大臣塔新哈を喀浪圭カランクイに副將賴永貴を明約洛ミンヨクロに出して夾剿せしめたり。回賊佯て險に誘ひ、其の後路を截ちて清兵を破れり。玉素普、勝に乗して喀什噶爾に入り、浩罕の兵を以て其の漢城を攻めしめ、自ら喀什噶爾の回兵を率ゐて葉爾羌に向ふ。葉爾羌の壁昌苦戰遂に之を卻く。斯て清の援軍諸道より阿克蘇に集るや、回賊其の敵すべからざるを思ひて瓦解す。明年春、宣宗、大學士長齡及伊犁將軍玉麟に命じ、喀什噶爾に赴きて善後の策を講せ